



TITLE:

地球系構造実験室の運営・管理

AUTHOR(S):

有馬, 博人

CITATION:

有馬, 博人. 地球系構造実験室の運営・管理. 京都大学大学院工学研究科
技術部報告集 2018, 15: 50-51

ISSUE DATE:

2018-06

URL:

<https://doi.org/10.14989/231967>

RIGHT:

地球系構造実験室の運営・管理

○有馬 博人¹

¹ 京都大学工学研究科技術部

1. 地球系構造実験室の概要

筆者は地球系構造実験室(以下、構造実験室)と隣接する工作室に関する支援をおこなっている。構造実験室(818m²)は様々な載荷装置を有し、載荷実験することを目的とし、工作室(52m²)は鋼製の試験体や治具の製作・加工することを目的としている。現在常時5つの研究室が利用している。

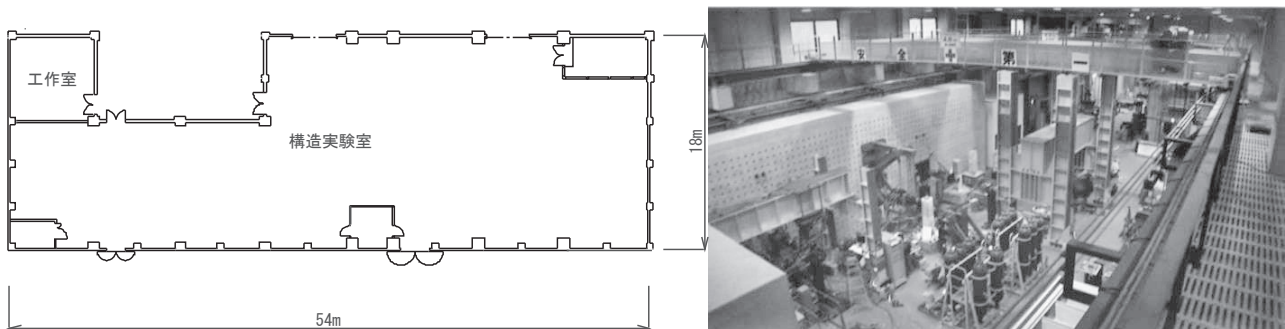


図1 構造実験室の平面図と上からの眺め

2. 運営

平成25年度より「地球系構造実験室運営委員会」(以下、委員会)が発足した。現在委員会は常時利用している5つの研究室から7名の教員と筆者にて構成している。委員会は年2回程度実施され、筆者が予め決めた内容にもとづいて審議される。

3. 予算管理

委員会発足後、物品購入や設備修理ため、各研究室から一定額の負担金をいただいている。1研究室の負担金の額を超える支出が発生する場合があるので、構造実験室専用の予算枠を新設し、各研究室から振り替えることによって対応している。予算の用途については予め委員会にて次年度予算として計上し、承認をうけるものの他、突発的な使用については審議依頼後の一定期間ののち承認していただく方法をとっている。

4. 安全管理

4.1 学生への対応

委員会の発足に伴って、構造実験室や工作室を利用する学生を対象として、安全講習を実施することとなった。安全講習の受講によって利用できる期間を1年間とし、1年を越えて利用する学生には再度安全講習を受講させるようにした。当初は9月におこなわれる大学院の夏期集中授業内でのみ実施されていたが、平成28年度より5月の実施を増やし、年2回とした。5月実施分については筆者が講習会を担当している。今年度の受講学生は2回あわせて58名であった。構造


地球系構造実験室利用許可証							
	氏名 京大 太郎 (きょうだい たらう)						
	血液型 A (Rh+)						
	学年 修士1年生						
	所属 ○○○○専攻 △△△分野						
	期限 2018年5月の講習まで有効						
学研災 学研賠	<table border="1"><tr><td>機械運転技術講習</td><td>自由研削特別教育</td></tr><tr><td>丸のこ安全教育</td><td>クレーン特別教育</td></tr><tr><td>玉掛け技能講習</td><td>アーク溶接特別教育</td></tr></table>	機械運転技術講習	自由研削特別教育	丸のこ安全教育	クレーン特別教育	玉掛け技能講習	アーク溶接特別教育
機械運転技術講習	自由研削特別教育						
丸のこ安全教育	クレーン特別教育						
玉掛け技能講習	アーク溶接特別教育						

図2 利用許可証

実験室内で受講した学生かどうか分かるように、利用許可証を作成し構造実験室内に掲示するようにしている。

4.2 業者への対応

試験体や治具の搬入・搬出・設置や設備の修理等で業者が良く出入りする。実験室内で作業する業者を対象として、毎年度最初の作業を開始するまでに「安全衛生管理に関する誓約書」を提出していただいている。誓約書には安全管理、衛生管理について条項を記載している。

5.情報の収集と提供

委員会委員に実験室の状況を理解していただくことを目的として情報の収集と提供をおこなっている。主なものは、実験計画の作成である。各委員の実験予定の収集とそれをもとにして実験計画を作成し配布する。その他には使用電力量も月毎に報告している。平成26年8月に構造実験室のHPを開設し、随時構造実験室の状況・動きが把握できるように努めている。

6.技術職員としての業務

前述のそれぞれについて、技術職員としての筆者の主な業務を表1に示す。

表1 構造実験室の運営・管理における技術職員の主な業務

運営委員会	予算管理	安全管理	情報の収集と提供
委員会開催の日程調整 議事内容の決定 委員会資料の作成 委員会の進行 議事録の作成・送付	予算案の作成 予算執行状況の確認 予算執行の承認 各研究室からの振替調整	利用者安全講習 ・5月実施分全般 ・利用許可証の作成 ・委員への受講者の報告 安全衛生管理誓約書 ・誓約書の更新・配布	実験計画の作成・配布 使用電力量の月次報告

7.今後の検討課題

構造実験室のある京都大学桂キャンパスCクラスターC1棟は今年度でPFI事業が終了する。構造実験室においてはPFI事業で実施していたクレーン4基の年次点検とpH中和槽内清掃は来年度から構造実験室負担となるため、維持管理費用の増大が確実となっている。その対策が当面の検討課題である。

※本稿は「2017年度 信州大学 実験・実習技術研究会 報告集」に掲載されたものです。